

### 平成30年度版 初期臨床研修プログラム

<b>兵庫県立尼崎総合医療センター (基幹型臨床研修病院)</b>	<b>病院名</b>	兵庫県立尼崎総合医療センター
	<b>開設者</b>	兵庫県
	<b>病院長名</b>	藤原 久義
	<b>所在地</b>	〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町2丁目17番77号
	<b>電話</b>	06-6480-7000
	<b>FAX</b>	06-6480-7001
	<b>最寄駅と交通機関</b>	阪神電車尼崎駅下車徒歩約15分

### 兵庫県立尼崎総合医療センターの概要はコチラ

<https://agmc.hyogo.jp>

#### 理念

マグネット・ホスピタルの機能を有する阪神地域の総合的な基幹病院として、良質かつ適切な医療を提供することにより、県民の安全と安心の確保に貢献するとともに、医学の発展に寄与します。

#### 運営の基本方針

- 1.患者さまの立場に立った医療サービスに努め、患者さまと医療従事者の信頼関係に基づいた医療を提供します。
- 2.阪神地域の総合的な基幹病院として、医療の進展に対応するとともに、充実した診療体制のもと、先進的な高度専門医療を提供します。
- 3.患者さま・家族、地域の医療機関、保健機関、福祉機関等と相互に連携し、切れ目のない地域医療の実現に寄与します。
- 4.大規模な自然災害や事故、強力な感染症の流行等の発生時において、県民の安全と安心の確保に貢献します。
- 5.医療事故、院内感染等の防止のための医療安全対策を充実し、患者さまにとって安全で安心な病院づくりを目指します。
- 6.体系的なプログラムに基づいた教育・研修・研究を行い、医療従事者の養成並びに医学の発展に寄与します。

#### 病院の沿革・特徴

昭和11年10月に県立西宮懐仁病院尼崎分院として開院、昭和22年5月県立尼崎病院と改称。昭和46年4月厚生省臨床研修指定病院の指定を受ける。昭和61年10月に許可病床数500床で新病院にて開設。阪神地域基幹病院として、また自治省より兵庫県内公立病院の中心病院の指定を受け、高度医療サービスを行うため活躍している。なお、昭和62年12月に開放型病院として承認、昭和63年3月には臨床修練指定病院の指定、平成12年2月に日本医療機能評価機構の認定を受けている。

さらに兵庫県立病院の機能の純化や高度化をはかる病院構造改革により平成19年に県立塚口病院から脳外科、呼吸器科が移管し脳血管疾患や肺がんの専門医療の充実が図られた。

平成23年1月には卒後臨床研修評価機構の認定を更新し(新病院で再取得予定)、臨床研修病院として質の向上に努力している。県立尼崎病院と県立塚口病院は平成27年7月に統合新築移転し、兵庫県立尼崎総合医療センターとしてスタートし、平成29年1月4日付けで公益財団法人日本医療機能評価機構から「病院機能評価3rdG:Ver.1.1」の認定を受けました。

#### 研修施設の規模とプログラム協力病院・協力施設

<b>病床数</b>	730床
<b>診療科</b>	(内科系)内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、心療内科、緩和ケア内科、感染症内科、漢方内科、精神科、リウマチ科、アレルギー科、(外科系)外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、歯科口腔外科、(小児科系)小児科、小児循環器内科、小児外科、小児アレルギー科、(救急)救急科、小児救急科、(診断治療部門)放射線治療科、放射線診断科、病理診断科
<b>協力型臨床研修病院・臨床研修協力施設</b>	県立西宮病院、県立加古川医療センター、県立淡路医療センター、県立柏原病院、県立こども病院、県立がんセンター、県立姫路循環器病センター、県立光風病院(精神科)、兵庫県災害医療センター(救急)、県立粒子線医療センター、リハビリテーション中央病院、リハビリテーション西播磨病院、製鉄記念広畑病院、尼崎市医師会所属医療機関(診療所・病院)、こだま病院(宝塚市)、公立豊岡病院組合立出石医療センター、日高医療センター、朝来医療センター、公立香住病院、公立村岡病院、公立浜坂病院
<b>基幹施設</b>	県立尼崎総合医療センター

# 県立尼崎総合医療センター初期臨床研修の理念と特色

すべての研修医が、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践し、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる外傷又は疾病に適切に対応できるよう、チーム医療を遂行する中で幅広い基本的な臨床能力を身につけ、医師としての人格を涵養し、地域や社会に貢献できるようになることを目標とする。このプログラムでは阪神地区の中核病院である県立尼崎総合医療センターとそれぞれの地域性や専門性に特徴を有する県立病院、尼崎市医師会、公立豊岡病院組合の協力施設等が病院群を形成しており、プライマリ・ケアの基本的診療能力を効率的に身につけることができると同時に、地域と連携した医療の実践から高度医療を担う県立病院の専門性を生かした研修まで企画されている。またこのプログラムを終了した研修医には兵庫県立各病院での後期研修プログラムが用意されており、県民に貢献できる使命感あふれた医師の養成を目指している



## ACLSコース

H14年第1回開始で歴史は古い。ACLS部会があり専攻医・看護部が中心となり年3回の定期的courseを開催している。

## 初期臨床研修プログラムの概要

2

### 【初期臨床研修プログラム 一般コース】 プログラム責任者 竹岡 浩也

### プログラムの特色

1. 高度医療を担う地域中核急性期型病院の特徴を生かし、common diseaseから専門性の高い疾患まで症例が非常に多彩で豊富なのが第1の特色です。
2. 教育熱心な指導医と若手医師による屋根瓦式指導体制を採り、手技は積極的に経験させる長年の臨床研修病院としての伝統があります
3. 内科、救急、外科、小児科、精神科、および地域医療が必修研修で、内科研修ではすべての内科分野を2ヶ月ずつローテートできます。
4. 診療科間の垣根はとて低く、アットホームな研修環境が自慢です。
5. 充実した専門医による専門教育導入と後期研修プログラムを用意しています。
6. 多彩な大学出身の研修医たちが互いに励まし合い、切磋琢磨しています。
7. 選択研修は当院ではもちろんのこと県立病院群形成による総合型病院(西宮、淡路、加古川、柏原病院)および専門型病院(こども病院、がんセンター、姫路循環器病センター、光風病院、粒子線医療センター、災害医療センター、リハビリテーション中央・西播磨病院など)、さらに平成29年度からは製鉄記念広畑病院でも研修が可能となり、バラエティ豊かに選択できます。

### 研修方式

1. スーパーローテート方式
2. 1年次では内科7ヶ月、救急部門3ヶ月、外科2ヶ月を必修研修とし、2年次では、精神科1ヶ月、小児科2ヶ月、地域医療1ヶ月、救急部門3ヶ月を必修研修とする。残りの5ヶ月は選択研修となる。選択研修では当院に加え兵庫県立臨床研修病院群の中から幅広い選択の機会が用意されている。選択研修の研修期間は3~4ヶ月単位とするが、希望により1~2ヶ月単位など弾力的に運用する。
3. 研修医のローテーションの例

1年次			2年次				
4~10月	11~1月	2~3月	4~5月	6月	7月	8~10月	11~3月
内科	救急(総合内科・麻酔科)	外科	小児科	精神科	地域医療	救急(救急科・麻酔科)	選択研修

#### 4. 必修研修科目の研修概要

ア) 内科研修	内科診療科(循環器内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌科、腎臓内科、血液・腫瘍内科)を内科領域の到達目標を達成できるようにローテート研修する。循環器内科以外の6科を2科ずつ3グループに分け1グループに2ヶ月間配属される。循環器内科は単独1ヶ月研修とする。
イ) 救急研修	救急研修は1年次3ヶ月(ER総合診療科2ヶ月、麻酔科1ヶ月)、2年次3ヶ月(救急科2ヶ月、麻酔科1ヶ月)の合計6ヶ月研修する。1年次のER総合診療科では基本的診療技法や、臨床推論などを習得するとともに、救命救急センターで救急の初期対応を学ぶ。2年次の救急科では、救急初療に加えて、E-ICUでの救急重症者管理、救急病棟での入院患者診療処置を学ぶ。麻酔科の1年次では、気道確保・気管挿管・静脈路確保などの基本手技等について学び、2年次では集中治療室での重症患者の集中治療管理等について研修をする。
ウ) 外科研修	消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科患者の担当医となり、周術期管理、基本的外科診療を研修する。
エ) 小児科研修	一般小児科で2ヶ月間研修を行う。この期間に2週間の産婦人科研修を行い、分娩を経験する。また希望により小児循環器内科、新生児科での研修を行なう。
オ) 精神科研修	県立光風病院で1ヶ月間の研修を行う。
カ) 地域医療研修	1ヶ月間地域の医療機関(尼崎市・宝塚市内の診療所、公立豊岡病院の関連施設等)で研修を受ける。

- 5.基本研修科目や必修選択科目の充実・補完ならびに将来専攻する専門科での研修など、研修医の多様な希望に応えるために5ヶ月間は当院を含めた県立病院群での研修を選択できる。研修期間は2ヶ月以上を1単位とし、同一科目を5ヶ月選択することを可能とする。また、漢方内科など1ヶ月単位での研修ができる診療科も用意しており選択期間は柔軟に対応している。

## 【初期臨床研修プログラム 小児科専門コース】 プログラム責任者 毎原 敏郎

### プログラムの特色

- 1.阪神地域の中核病院として、42診療科との協力の下に研修医としての総合的な能力を育成する指導体制を持つ
- 2.一般小児科以外に新生児科(NICU)・小児循環器内科・小児救急集中治療科・小児外科・産婦人科での研修がある(一部は選択制)
- 3.救命救急センターで外傷も含めた小児の救急医療を経験する
- 4.県立病院群として専門型病院(こども病院、光風病院、災害医療センター、リハビリテーション病院など)や地域病院での研修が選択できる

### 目標の概要

すべての研修医が全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践し、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる外傷・疾病に適切に対応できるように、またチーム医療を遂行する中で幅広い基本的な臨床能力を身につけ、医師としての人格を涵養し、地域や社会に貢献できるようになることを目標とする。特に小児科専門コースにおいては、「臓器・疾患の専門である」前に「子どもが専門である」という心構えで、内科疾患だけでなく外科疾患、外傷も含めた救急、心身症や発達障害、児童虐待などにも幅広く対応できる総合力を養うことが目標である。

### 研修期間

2年

### 研修方式

- 1.基本的な研修プログラムとしては、1年次は当センターの一般コースの初期研修プログラムとほぼ同様である。必修研修は、必修科目の内科7ヶ月、救急部門5ヶ月(1年次にER総合診療科2ヶ月・麻酔科1ヶ月、2年次にER総合診療科2ヶ月)、地域医療1ヶ月、及び外科1ヶ月、小児外科1ヶ月、精神科1ヶ月、小児科2ヶ月、産婦人科1ヶ月とする。残りの5ヶ月は選択研修となる。選択研修では当院に加え兵庫県立臨床研修病院群の中から幅広い選択の機会が用意されている。選択研修の研修期間は2~3ヶ月単位とするが、希望により1ヶ月単位など弾力的に運用する。

#### 2.研修医ローテーションの例

1年次				2年次					
4~10月	11~1月	2月	3月	4~5月	6月	7月	8月	9~10月	11~3月
内科	救急(総合内科・麻酔科)	外科	小児外科	小児科	産婦人科	精神科	地域医療	救急(救急科・麻酔科)	選択研修

#### 3.必修研修科目の研修概要

ア)内科研修	内科診療科(循環器内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液・腫瘍内科を内科領域の到達目標を達成できるようにローテート研修する。循環器内科以外の6科を2科ずつ3グループに分け1グループに2ヶ月間配属される。循環器内科は単独1ヶ月研修とする。
イ)救急研修	救急部門の5ヶ月では、1年次に2ヶ月をER総合診療科で、1ヶ月を麻酔科で研修する。ER総合診療科では基本的診察技法や、臨床推論などを習得するとともに、救命救急センターで救急の初期対応を学ぶ。麻酔科では、気道確保・気管挿管・静脈路確保などの基本手技について学ぶ。すべての1年次研修医は上級医とペアで救急外来の日当直を担当する。
ウ)地域医療研修	1ヶ月間、地域の医療機関(尼崎・宝塚市内で小児科を標榜する診療所から選択)で研修を受ける。

#### 4.病院で定めた必修科目の研修概要

ア)外科研修・小児外科研修(必修)	消化器外科、小児外科で各1ヶ月ずつ研修し、患者の担当医となって、周術期管理、基本的外科診療を計2ヶ月研修する。
イ)小児科研修(必修)	一般小児科の研修を2ヶ月間行う。
ウ)精神科研修(必修)	県立光風病院で1ヶ月間の研修を行う。
エ)産婦人科研修	1ヶ月間の研修を行う。この間に産科当直に参加して、正常分娩を経験する。

#### 5.選択科目の研修概要

2年次の研修として、小児科専門コースでの救急に関する研修はER総合診療科で2ヶ月間行う。上級医のバックアップのもとファーストコール当直となり、より実践的な救急外来当直を務める。これらの研修課程によって必要な救急疾患のプライマリ・ケアを習得する。集中治療に関する研修は小児救急集中治療科(PICU)で行う。その期間に、小児に関するドクターカーやヘリ搬送などの病院前診療、救命救急センターでの診療・処置、救急・重症患者の集中治療管理を学ぶ。小児科に関連する選択科目としては、他に小児循環器内科、新生児科も選ぶことができる。必修科目研修の充実・補完ならびに将来専攻する専門科での研修など、研修医の多様な希望に応えるために、最長5ヶ月間当院を含めた県立病院群での研修を選択できる。その際に、研修期間は2ヶ月以上を1単位とし、同一科目を5ヶ月選択することを可能とする。また漢方内科など1ヶ月単位での研修ができる診療科もあり、選択期間は柔軟に対応している。

# 【初期臨床研修プログラム 産婦人科コース】 プログラム責任者 廣瀬 雅哉

## プログラムの特色

- 1.高度医療を担う地域中核病院の特徴を生かした、豊富な症例数と院内外での多彩な学習機会。
- 2.指導医と若手医師による屋根瓦方式を目指したマンツーマン指導体制。
- 3.充実した専門医による専門教育の導入と後期研修医(専攻医)への道。
- 4.県立病院群形成による専門型病院(こども病院、がんセンター、姫路循環器病センター、光風病院、粒子線医療センター、災害医療センター、リハビリテーション病院等)での選択研修の機会と県立11病院での後期研修への道。
- 5.産婦人科コースとして、将来産婦人科医となるための動機づけ、準備となるよう産婦人科および産婦人科関連診療科で重点的に研修を実施

## 目標の概要

すべての研修医が、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践し、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる外傷又は疾病に適切に対応できるよう、チーム医療を遂行する中で幅広い基本的な臨床能力を身につけ、医師としての人格を涵養し、地域や社会に貢献できるようになることを目標とする。このプログラムでは阪神地区の中核病院である県立尼崎総合医療センターとそれぞれに地域性や専門性に特徴を有する県立病院、尼崎市医師会が病院群を形成しており、プライマリ・ケアの基本的診療能力を効率的に身につけることができると同時に、地域と連携した医療の実践から高度医療を担う県立病院の専門性を生かした研修まで企画されている。またこのプログラムを終了した研修医には兵庫県立各病院での産婦人科後期研修プログラムが用意されており、県民に貢献できる使命感あふれた医師の養成を目指している。

## 研修期間

2年

## 研修方式

- 1.必修研修は必修科目の内科7ヶ月、救急部門6ヶ月(1年次にER総合診療科2ヶ月・麻酔科1ヶ月、2年次に救急科2ヶ月・麻酔科1ヶ月)、地域医療1ヶ月、及び選択必修科目のうち、外科2ヶ月、精神科1ヶ月、小児科2ヶ月、産婦人科1か月とする。残りの4ヶ月は選択研修となる。選択研修では当院に加え兵庫県立臨床研修病院群の中から幅広い選択の機会が用意されている。選択研修の研修期間は2～3ヶ月単位とするが、希望により1ヶ月単位など弾力的に運用する。また選択必修科目のうち、必修としない麻酔科を希望する場合も選択研修期間中に研修ができる。

- 2.研修医ローテーションの例

1年次			2年次					
4～10月	11～1月	2～3月	4～5月	6月	7月	8月	9～11月	12～3月
内科	救急(総合内科・麻酔科)	外科	小児科	産婦人科	地域医療	精神科	救急(救急科・麻酔科)	選択研修

- 3.必修研修科目の研修概要

ア)内科研修	内科診療科(循環器内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液・腫瘍内科)を内科領域の到達目標を達成できるようにローテート研修する。 循環器内科以外の6科を2科ずつ3グループに分け1グループに2ヶ月間配属される。 循環器内科は単独1ヶ月研修とする。
イ)救急研修	救急部門の6ヶ月では、まず1年次に2ヶ月をER総合診療科で、1ヶ月を麻酔科で研修する。ER総合診療科では基本的診察技法や、臨床推論などを習得するとともに、救命救急センターで救急の初期対応を学ぶ。麻酔科では、気道確保・気管挿管・静脈路確保などの基本手技について学ぶ。すべての1年次研修医は上級医とペアで救急外来の日当直を担当する。 2年次の救急研修では、2ヶ月を救急科(救急救命センター)で、1ヶ月を麻酔科で研修する。救急科では、救急初療に加えて、E-ICUでの救急重症者管理、救急病棟での入院患者診療処置を学ぶ。あわせて麻酔科で、集中治療室での重症患者の集中治療管理等について研修する。2年次では上級医のバックアップのもとファーストコール当直となり、より実践的な救急外来当直となる。これらの研修課程により必要な救急疾患のプライマリ・ケアを習得する。また、救急配属期間は週1回指導医による人工呼吸器院内ラウンドに参加し、適切な人工呼吸器使用法の指導を受ける。
ウ)地域医療研修	1ヶ月間地域の医療機関(公立豊岡病院組合関連医療機関、尼崎・宝塚市内診療所から選択)で研修を受ける。

- 4.選択必修科目の研修概要

ア)外科研修(必修)	消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科患者の担当医となり、周術期管理、基本的外科診療を2ヶ月研修する。
イ)小児科研修(必修)	尼崎総合医療センターにおいて主にNICUにおける小児科研修を2ヶ月間行う。
ウ)産婦人科研修	尼崎総合医療センターにおいて1ヶ月間の研修を行う。
エ)精神科研修(必修)	県立光風病院で1ヶ月間の研修を行う。
オ)麻酔科研修	選択必修科目として麻酔科を希望する場合、県立尼崎総合医療センターにおいて選択研修期間中にそれぞれ1ヶ月間の研修を行うことができる。

- 5.選択研修科目の研修概要

必修科目や選択必修科目研修の充実・補完ならびに将来専攻する専門科での研修など、研修医の多様な希望に応えるために、最長4ヶ月間当院を含めた県立病院群での研修を選択できる。(ただし、研修期間は2ヶ月以上を1単位とし、同一科目を4ヶ月選択することを可能とする。また漢方内科など1ヶ月単位での研修ができる診療科も用意しており選択期間は柔軟に対応している。

各病院で選択可能な研修科目は下記の通りである。

県立尼崎総合医療センター	ER総合診療科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、血液・腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、漢方内科、消化器外科・外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、小児科、小児循環器内科、小児外科、救急科、小児救急科、放射線科、病理診断科（県立尼崎病院、塚口病院で研修医を受入れている診療科を記載）
県立西宮病院	内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、消化器病センター（消化器内科、消化器外科）、外科、乳腺外科、小児科、産婦人科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、地域周産期センター（NICU,GCU）、腎疾患総合医療センター、脳卒中センター、救命救急センター
県立加古川医療センター	救命救急センター、総合内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、緩和ケア内科、感染症内科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、精神科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科
県立淡路医療センター	内科、外科、心臓血管外科、小児科、産婦人科、精神科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、耳鼻咽喉科、麻酔科、救命救急センター、形成外科、循環器内科、リハビリテーション科
県立柏原病院	一般内科、外科、小児科、産婦人科、循環器内科、消化器内科
県立光風病院	精神科、児童思春期精神科
県立こども病院	小児科（小児内科、小児外科、小児救急、小児麻酔科などを含む）、産科
県立がんセンター	血液内科、呼吸器内科、消化器内科、緩和ケア内科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、頭頸部外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、腫瘍内科、病理診断科
県立姫路循環器病センター	循環器内科、心臓血管外科、神経内科、脳神経外科、糖尿病・内分泌内科、外科、放射線科、救命救急センター、形成外科、麻酔科、高齢者脳機能治療室
県立粒子線医療センター	放射線科
県立災害医療センター	高度救命救急センター
リハビリテーション中央・西播磨病院	リハビリテーション科
製鉄記念広畑病院	内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科、外科、消化器外科、乳腺内分泌外科、血管外科、産婦人科、小児科、脳神経外科、整形外科、放射線科、麻酔科、救急科、泌尿器科、耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、形成外科、精神神経科、病理科

## オリエンテーション

本研修前に研修オリエンテーションがある。

- 1.院長以下病院幹部による当院の組織および特性のオリエンテーション。
- 2.研究検査部で自ら実施すべき基本検査の技術を修得する。
- 3.放射線科、薬剤部（処方箋の書き方を含む）、栄養管理課よりオリエンテーション。
- 4.医の倫理、保険診療、病理解剖、EBM、文献検索、図書、感染症対策、輸血、終末期緩和医療、リスクマネジメント、インフォームドコンセント、化学療法、退院サマリーなどについての講義・研修。内容は年度により異なる。
- 5.看護部オリエンテーションと病棟看護実習。
- 6.実技研修（採血、注射、皮膚縫合実習、人工呼吸器および輸液ポンプの操作を含む）
- 7.電子カルテの1日研修
- 8.医局オリエンテーション
- 9.研修医勉強会

## 共通臨床研修

- 1.全研修医が共通に習得すべき研修項目カンファレンスを研修医が自主的、継続的に1年目に行い、指導医が支援する。
- 2.各種セミナー、講習会
- 3.ACLSコース：年2～3回のICLS講習会を研修医・専攻医・看護師が主体となって準備から運営まで行う中で、研修医をインストラクターとして養成する。
- 4.CPC：毎月1回、すべての研修医、指導医、病理医が参加しCPCを行う。担当した研修医は検討された内容をCPCレポートとして作成する。
- 5.研修終了時に研修成果を発表する研修医発表会がある。同時に優秀研修医(junior resident of the year)の授与式が行われる。



♪ 2014年度生研修医発表会 ♪



# 2015年度生 Junior resident of the year 表彰式 #

## 研修記録および評価

- 1.研修管理委員会は研修手帳を発行し、研修医は常時携帯する。また研修医がローテーションする診療科・施設での研修終了時に自己および研修責任者が研修評価を全国共通オンライン評価システムのEPOCに入力し、研修内容の調整などのフィードバックをおこなう。
- 2.研修手帳の記載項目
  - (1)勤務状況の記録。健康診断、肝炎検査・予防注射の記録
  - (2)共通研修プログラム(講義、CPC、セミナー)、カンファレンス等の出席状況
  - (3)退院サマリー(手術記録を含む)の記載と提出状況
  - (4)論文・学会・研究会で発表記録(論文・演題タイトル、雑誌名と巻、学会名・研究会名と開催日)
  - (5)研修医自己評価表(行動目標、経験目標の到達度評価)
  - (6)指導医評価表
  - (7)コメディカルによる評価表

## 研修医の出身大学

平成23年度 京都大、神戸大、島根大、鳥取大、香川大、滋賀医大、大阪市立大、大阪医大、川崎医大  
平成24年度 京都大、神戸大、広島大、香川大、奈良県立医大、大阪市立大、大阪医大、三重大、愛媛大  
平成25年度 京都大、神戸大、滋賀医大、三重大、山口大、愛媛大、和歌山県立医大、大阪市立大、兵庫医大、川崎医大  
平成26年度 京都大、神戸大、東北大、島根大、鳥取大、琉球大、徳島大、香川大、滋賀医大、大阪市立大、兵庫医大、大阪医大  
平成27年度 京都大、神戸大、高知大、徳島大、香川大、京都府立医大、大阪市立大、奈良県立医大、関西医大、産業医大、兵庫医大  
平成28年度 京都大、神戸大、高知大、徳島大、香川大、京都府立医大、大阪市立大、奈良県立医大、関西医大、産業医大、兵庫医大

## 研修終了後の主な進路

兵庫県立病院の専攻医制度により、臨床研修終了後も引き続き11県立病院に勤務可能。当院専攻医研修期間は3年間で、採用人数は全体で約50名。平成20年度からフェロー(卒後6-7年目の2年間コース)制度が導入されている。

**勤務可能な11県立病院:** 尼崎総合医療センター、西宮病院、加古川医療センター、淡路医療センター、光風病院、柏原病院、こども病院、がんセンター、姫路循環器病センター、粒子線医療センター、災害医療センター

## 募集と採用

公募。マッチングシステムに参加し採用決定

募集人数:24名(一般コース20名、小児科専門コース2名、産婦人科コース2名)

## 処遇

勤務形態	日々雇用職員
勤務時間	週38時間45分勤務(1日7時間45分、アルバイト禁止)
給与	1年次 月額15,200円(304,000円/20日) 2年次 月額16,000円(320,000円/20日)
手当	通勤手当、宿日直手当20,000円/回(5時間未満の場合は10,000円/回) 超過勤務手当(宿日直勤務中に緊急患者対応などを行った場合に限り)
宿舍	あり(住居費自己負担あり:単身用16,400円~17,100円)
休暇	1年間に10日有給休暇有。2年目は11日。
当直	月3-4回。上級医のもとに当直業務を行う。
社保	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険 有。
食事	病院内に職員食堂がある。個人負担。
駐車場	緊急時の使用のみ。条件付で通勤使用可。
健康管理	定期健康診断、肝炎ウイルス検査、インフルエンザ予防注射 有。
医師賠償責任保険	県立病院として加入済み。

## 臨床研修に必要な施設・機材・診療要員の配置

メディカルライブラリー	24時間利用可能。医学雑誌・単行本の年間購入予算額は約2,000万円。 (※新病院での名称は『メディカルライブラリー』に変更。)
院内で利用できる資料	外国雑誌はオンライン・ジャーナルのみで、単体分に加え ClinicalKey、LWW Fixed 10、MEDLINE Complete、SpringerLink Hospital Editionなど、計約3,400タイトル。 国内雑誌は冊子体に加え、メディカルオンラインも利用でき、計約1,100タイトル。 単行本は図書室所蔵分と部署保管分があり。
文献検索	インターネット環境が整備され、PubMedのほか、医学中央雑誌Web版、DynaMedなどで検索可能。
文献取り寄せ	図書室員に依頼する。費用は個人負担。
医学教育用シミュレーター	中心静脈穿刺シミュレーター、気管内挿管人形(3)、ACLS人形(3)、BLS人形(10)。

## 1 臨床研修病院説明会(近畿厚生局主催)

平成29年2月18日(土) 10:00~17:00 ホテル大阪ベイタワー(弁天町)  
個別ブースによる病院説明、相談

## 2 臨床研修病院合同説明会(兵庫県医務課主催)

平成29年5月上旬頃(予定) 13:30~16:30 神戸国際会議場301 レセプションホール  
参加病院からのプレゼンテーションと個別説明

## 3 兵庫県立病院臨床研修制度説明会(病院局主催)

平成29年6月3日(土) 14:00~16:30 神戸国際会館セミナーハウス9階大会議場  
病院局からの概要説明と各病院からの説明、医学生との個別相談  
「平成30年度兵庫県立病院における臨床研修制度説明会開催のご案内」\*後日掲載  
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/bk02/rinnsyoukennsyuuseidosetumeikai24.html>

## 4 病院説明会と院内見学

兵庫県立尼崎総合医療センター(尼崎市東難波町2丁目17-77)

平成30年度兵庫県立尼崎総合医療センターの卒後研修についての説明会を下記のとおり予定しております。  
説明会に関する問合せ及び参加申込は総務課(連絡先は下記)へお願いします。

日時:平成29年5月27日(土) 13:00~  
内容:院長挨拶・初期臨床研修プログラム説明会・病院見学・各診療科説明・質疑応答等(順番は変更の可能性あり)  
場所:兵庫県尼崎市東難波町2丁目17番77号 兵庫県立尼崎総合医療センター1階講堂  
参加申し込み(5月19日(金)までにお申し込みください)

- ①お名前、大学名、卒業見込み年度
- ②希望診療科
- ③連絡先(メールアドレス可)をお知らせください。

その他:当日は、北玄関(正面玄関向かって左手奥)から入り、防災センターで受付をしてください。

連絡先:当事項に関するお問い合わせ、お申し込みは下記までお願いします。

申込み先Eメール:info@agmc.hyogo.jp  
件名に「病院説明会と院内見学希望」と明記し、医師事務青野宛に送付してください。  
担当者:医師事務青野

兵庫県立尼崎総合医療センター  
TEL.06-6480-7000 FAX.06-6480-7001  
住 所 尼崎市東難波町2丁目17-77  
アクセス 阪神尼崎駅下車徒歩約15分

## 5 レジナビフェア2017in大阪/医学生(民間医局主催)

平成29年7月2日(日) 10:00~17:00 インテックス大阪(大阪市住之江区)  
個別ブースによる病院説明、相談

応募資格	第112回医師国家試験受験予定者(平成30年2月予定)
募集定員	24名予定
応募書類	後日掲載予定
応募受付期間	後日掲載予定
応募方法	後日掲載予定
選考方法	筆記試験(医学一般・英語・多肢選択式)、面接試験および書類審査により選考を行います。(予定)
試験日	平成29年8月17日(木) 午前:筆記試験、午後:面接試験 ※試験の詳細は応募者に別途通知します。
応募書類等	AGMC 初期臨床研修医募集要項内の応募書類等は、後日掲載します。
留意事項	兵庫県立病院は、医師臨床研修マッチング協議会が実施するマッチングに参加して募集・採用を行うため、応募にあたっては平成29年8月3日(木)までにマッチングに参加登録してください。
研修開始日	平成30年4月1日

お問い合わせ

兵庫県立尼崎総合医療センター

〒660-8550 尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL.06-6480-7000(代)

担当:総務課 仲井 info@agmc.hyogo.jp